

学位論文審査の要旨

		要 旨
<p>学位申請者</p>	<p>和田 薫子 【比較社会文化学専攻 平成25年度生】</p>	<p>本研究の目的はカナダ在住日本人女性の就労場面における葛藤が異文化受容態度およびキャリア形成意識にどのように影響するか質的・量的に検討したものである。第1章及び第2章ではカナダで就労する日本人女性を取り巻く環境や問題点について論じ、就労場面における葛藤、異文化受容態度、キャリア形成意識の理論的背景、関連研究を概観した。第3章では就労場面における葛藤を面接調査から質的に検討し、職場の対人行動の葛藤や不満足な職務内容等を示した。第4章から第6章までは質問紙調査を実施し多角的に分析した結果、就労場面における葛藤には「不満足な職務内容」、「違和感のある同僚の態度」、「疎外感」、「ハラスメント」、「組織における円滑な人間関係不足」、「言語能力不足による意思不疎通」の6因子が、異文化受容態度には「同化」、「日本文化分離」、「統合」、「第三文化分離」、「周辺化」の5因子が抽出された。異文化受容態度への影響要因について重回帰分析を行った結果、「同化」には英語レベルが正の影響、カナダ職務期間が負の影響、「日本文化分離」には「ハラスメント」と日常英語レベルが負の影響、日本人社員割合が正の影響、「統合」には日常英語レベルが正の影響、「第三文化分離」には「疎外感」の正の有意傾向、「周辺化」には「違和感のある同僚の態度」が負の影響、「言語能力不足による意思不疎通」が正の影響を与えていた。第5章では就労場面における葛藤と異文化受容態度と属性の関連性を検討した。第6章では就労場面における葛藤と10年後のキャリア形成意識の関連を検討した結果、キャリア形成意識は「継続勤務希望」、「日本文化普及希望」、「離職希望」、「専門性活用希望」、「転職希望」の5因子が抽出され、重回帰分析結果からは「継続勤務希望」には「不満足な職務内容」が負の影響、年齢が正の影響、「日本文化普及希望」には「疎外感」が正の影響、「言語能力不足による意思不疎通」、カナダ人社員割合が負の影響、「転職希望」には「不満足な職務内容」が正の影響を与えていた。第7章の総合的考察では、本研究で得られた知見を整理し、Berryの理論モデルを修正した第三文化分離の異文化受容態度をとる背景が示唆された。「日本文化普及希望」のキャリア形成意識をとる背景として、カナダの就労場面における自己喪失と居場所の模索が関連していることが挙げられた。</p> <p>審査は左記の5名の審査委員により6月から3回行なわれた。審査委員会では、審査員一様に研究課題に即した明晰かつ総合的な分析がなされており、カナダの日本人女性就労者の異文化受容態度とキャリア形成意識について、異文化間コミュニケーションから検討した独創性の高い論文であると評された。また、方法的にも質的なインタビュー及び質問紙調査を用いており研究の妥当性が高く評価された。しかし、論文における表現や質的研究の充実など内容面での若干の修正が指摘されたため、これらを踏まえ適切に修正を行い7月上旬に再提出した。再審査の結果、7月19日に公開発表会と最終試験が行なわれた。公開発表会では、明晰かつわかりやすい発表であり、参加者や審査委員の質問に対しては真摯な態度で的確に応答した。最終試験では、論文内容、語学力および周辺領域の基礎知識について口頭で説明を求めたが、適切な回答を得られたので、審査委員会では、最終試験を合格と判定し、博士（人文科学）(Ph. D. in Intercultural Education)として認定するに値すると、全員一致で学位授与を決定した。</p>
<p>論文題目</p>	<p>カナダ在住日本人女性の就労場面における葛藤の異文化受容態度とキャリア形成意識に及ぼす影響</p>	
<p>審査委員</p>	<p>(主査) 教授 加賀美 常美代</p>	
<p></p>	<p>教授 伊藤 美重子</p>	
<p></p>	<p>教授 浜野 隆</p>	
<p></p>	<p>准教授 荒木 美奈子</p>	
<p>インターネット公表</p>	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 可 ・ ⊖ ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>⊕. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	